

日本語(国語) 【小4】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1 ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の学年の学習内容、1 ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8 (モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8 (モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9 (モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7 (モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【小4】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 4月 ユニット・指導内容・ステップ			
【ユニット モジュール配分比率】		ステップ：現学年	【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7
ユニット[観点]・日本語テキスト		指導内容	
ばらばら言葉を聞き取ろう(話・聞①) 聞く		◎友達の話す言葉を聞き取る。	
春のうた (読①) 音読		◎情景を想像し、リズムを楽しみながら工夫して音読することができる。 【S1】 音読する。 【S2】 場面や人物の様子を思い浮かべて読む。 ・場所はどこか。 ・どんな人物が出てくるか。 【S3/S4】 言葉の抑揚[よくよう]や強弱、間の取り方などに気をつける。	
ほっ まぶしいな。 ほっ うれしいな。		ケルルン クック。 あぁいいにおいだ。 ケルルン クック。	ケルルン クック。 ケルルン クック。
みずは つるつる。 かぜは そよそよ。		ほっ いぬのふぐりがさいている。 ほっ おおきなくもがうごいてくる。	かえるは冬のあいだは土の中にいて春になると地上に出てきます。 そのはじめての日のうた。
白いぼうし (読⑦、書①) 音読		◎場面の移り変わり 中心人物の性格や気持ちの変化、情景 【S1】 「白いぼうし」を読む。 【S2】 場面と登場人物を整理する。 ・幾つの場面／登場人物／中心人物／どの場面で、誰が、何をするか。 【S3】 「松井さん」の人柄を捉える。 『会話文』 【S4】 不思議だなと思った場面(不思議な部分の初めと終わりに線を引く)	
【語彙・表現】 しんし 夏がいきなり始まったような暑い日 ワイシャツのそでを、うでまでたくし上げていました。 もぎたて いなかの おふくろ 速達 細いうら通り 緑がゆれているやなぎ ちょこんとおいてあります つまみ上げたたん、ふわっと ひらひら高くまい上がる なみ木 赤いししゅう糸 ため息をついている かたをすぼめてつつ立っていた あたたかい 日の光をそのままそめつけたような、見事な色 すっぱい、いいにおい おかっぱのかわいい女の子 ちょこんと後ろのシー トにすわっています せかせかと言いました。 やなぎのなみ木が、みるみる後ろに流れていきます。 ぽかっと口を○の字に 開けている男の子の顔 ひとりでにわらいがこみ上げてきました。 わた毛と黄色の花の交ざったたんぽぽ 点々のもよう おどるように飛んでいるちょう シャボン玉のはじけるような、小さな小さな声 かすかに、夏みかんのにおいがのこっています。			
▼ 色やにおいを表したり、想像させたりする言葉			
【新出漢字】			

信 シン 信号 自信 達 タツ 速達 発達 飛 ヒ 飛行 飛来 とぶ 飛び出す とばす 水を飛ばす 席 セキ 運転席 客席 辺 ヘン 周辺 近辺 あたり 辺り一面 べ 海辺 岸辺	建 ケン 建設 建国 (コン) たてる 建物 たつ ビルが建つ 菜 サイ 野菜 菜園 な 菜の花 青菜 印象 イン 印象 消印 しるし 目印 矢印 象 ショウ 印象 気象 ゾウ 象の親子
漢字の組み立て (伝国②) 漢字の部首	★ へん・つくり かんむり、かまえ、にょう、たれ、あしに関する漢字の組み立て
【新出漢字】 胃 イ 胃腸 腸 チョウ 胃腸 大腸 共 キョウ 共感 公共 とも 共に行動する 照 ショウ 照明 てる 日照り てらす 足元を照らす てれる 人前で照れる 熱 ネツ 発熱 熱心 あつい 熱い湯	景 ケイ 近景 風景 府 フ 府立 京都府 告 コク 広告 予告 つげる 春を告げる 街 ガイ 商店街 市街 (カイ) まち 街角 関 カン 関係 関心 せき 関所 かかわる 関わり合う
漢字辞典の使い方 (伝国②) 音読みと訓読み 漢字の画数	◎漢字辞典の使い方、漢字の部首や成り立ち、画数 「音訓索引」「部首索引」「総画索引」を使った調べ方
【新出漢字】 辞 ジ 辞典 辞書 (やめる) 典 テン 辞典 訓 クン 音訓 訓読み 類 ルイ 分類 人類 たぐい 類いまれな歌声 順 ジュン 手順 道順	愛 アイ 愛読書 愛用 夫 フ 夫人 フウ 工夫 おっと 夫と出かける 昨 サク 昨夜 昨年度 灯 トウ 灯台 点灯 (ひ)
春の風景 (書②) 春を感じる言葉	● 春を感じる言葉 【S1】写真や俳句から、春の風景や様子を表す言葉を考える。
山笑う 長い冬が終わり、草木がいっせいに芽ぶいて、山全体が明るくなっている様子。 木の芽 つみ草 ほころぶ 若草 春の野 芽生え 故郷やどちらを見ても山笑ふ 正岡子規 茶つみ お茶の木の新芽をつむこと。立春 (二月四日ごろ) から数えて八十八日目を「八十八夜」といい、このころが、茶つみの時期とされている。 茶畑 茶所 新茶 茶つみ歌 折々は腰たたきつつつむ茶かな 小林 一茶 いそ遊び しおひがり しまぐり あさり ひがた 磯遊び二つの島のつづきをり 高浜虚子	

日本語(国語)【小4】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 5月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
よりよい話し合いをしよう [コラム] 話す言葉は同じでも (話・聞④) 話し合い	◎よりよい話し合いのしかたについて考える。 四つの観点 ①予定通り進めるには ②意見が出るようにするには ③議題にそって話し合いを進めるには ④まとめるには ○「話す言葉は同じでも」 会話—表情[ひょうじょう]や声の調子
話し方のちがいで、相手の受け止め方はどうかわるでしょうか。 ▼たかしさんの返事で、ひとみさんは、それぞれのどのような気持ちになると思いますか。 ▼たかしさんの返事は、なぜちがったのでしょうか。それぞれのときの、ひとみさんの表情や声の調子を考えましょう。 ▼間をおいたのとおかないのとで、ひとみさんの受け止め方はかわるでしょうか。あなただったら、どう感じますか。	
【新出漢字】 司 シ 司会 上司 管 カン 管理 水道管 議 ギ 議題 会議 案 アン 提案 名案 参 サン 参加 参考 的 テキ 目的 科学的 くた ゴムの管 まいる お宮参り まと 的をねらう 加 カ 参加 加入 くわえる さとうを加える くわわる 活動に加わる 結 ケツ 結果 結局 むすぶ 結び付く (ゆう) (ゆわえる) 果 カ 結果 果実 はたす 役目を果たす はてる つかれ果てる はて 地平線の果て	
大きな力を出す (読⑧) 動いて、考えて、また動く 段落相互のつながり 文章の要点	◎段落[だんらく]相互[そうご]のつながり ◎文章の要点 【S1/S2】「大きな力を出す」を読む。 【S3/S4】段落相互のつながりや、事実・説明・筆者の考えの関係を捉える。
【語彙・表現】 段落 はじめ—中—終わり 「動いて、考えて、また動く」 文章の内容をとらえよう ▼筆者は、第一段落で自分の考えを書いています。どこが筆者の考えでしょうか。 ・第一段落に書かれた筆者の考えとほとんど同じ文が、全体の中にもう一か所あります。どの段落にありますか。 ・筆者は、なぜ二度、ほとんど同じ文を書いたのでしょうか。 ▼第二段落に書かれたぎもんについて、第三段落から第六段落までに、筆者が見つけた答えが書かれています。 ・第三段落から第六段落までを、三つのまとまりに分けましょう。	

- ・まとまりごとに、筆者が体験したり気づいたりした事実と、その解説を整理しましょう。
 - ・筆者が気づいたことが分かるように、まとまりごとに小見出しをつけましょう。
- ▼第七段落は、第二段落から第六段落までと、どのような関係でつながっていますか。

『言葉』

- ▼「動いて、考えて、また動く」には、頭や心のはたらきを表す言葉がたくさん出てきます。
- ・ぎもんを感じる
 - ・なやみ始める
 - ・思いつく
 - ・意識する

【新出漢字】

選	セン	選手	えらぶ	方法を選ぶ	験	ケン	経験	実験	(ゲン)
説	セツ	説明	解説	(ゼイ)	法	ハウ	方法	用法	(ハツ)
成	セイ	成功	成長	(ジョウ)	録	ロク	記録	録音	
なす	むれを成す			なる	必要	ヒツ	必要	必死	かならず 必ずしも
功	コウ	成功	(ク)		要	ヨウ	必要	重要	かなめ チームの要 (いる)
失	シツ	失敗	失礼	うしなう	積	セキ	積極的	面積	つむ かごを積む
敗	ハイ	失敗	勝敗	やぶれる		つもる	雪が積もる		
最	サイ	最高	最上	もっとも	極	キョク	積極的	南極	
陸	リク	陸上	陸地	最も古い寺		(きわめる)	(きわまる)	(きわみ)	

漢字の広場① (書②)

◎3年生までに配当されている漢字

島 港 鉄橋 お宮 坂道 宿 放送局 中央 都市 駅 県立図書館 地区センター 申し込み 市役所 曲がり道 農家 羊
温室 湖 畑 植える 薬局 商店 店主 安売り 行列 銀行 医者 病院

短歌・俳句に親しもう (一) (伝国①)

短歌や俳句 五七調のリズム

◎文語調の短歌や俳句[はいく]、五七調のリズム

- 【S1/S2】 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉の調子や響きを楽しむ。
【S3/S4】 気に入った短歌や俳句を選び、音読したり暗唱したりして楽しむ。

石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも 志貴皇子

君がため春の野に出でて若菜摘む我が衣手に雪は降りつつ 光孝天皇

見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける 素性法師

名月や池をめぐりて夜もすがら 松尾芭蕉

夏河を越すうれしさよ手に草履 与謝蕪村

雀の子そこのけそこのけ御馬が通る 小林 一茶

日本語(国語)【小4】6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 6月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
新聞を作ろう アンケート調査のしかた 新聞にのせる写真や図などを選ぶときには(書⑮) 新聞の特徴	◎新聞の特徴[とくちょう]と作り方 ○句読点や段落などに気をつけて書く。 【S1】教材文を読む。 【S2/S3】新聞の特徴や作り方の手順、割り付けの工夫を学ぶ。 【S4】取材 メモを取ること アンケート調査の方法 ※新聞は、さまざまなじょうほうを、多くの人に知らせる目的
新聞のとくちょうー ・新聞名と発行日、発行者 ・いくつもの記事 ・見出し ・写真 取材ー ・取材のしかた ・記事を書く人の分担 ・メモ 記事の下書きー わりつけ ・文の終わりー「です・ます」か、「だ・である」か。 ・読み手を引きつける見出し ・文章や文字にまちがいがいないか ・文字のまちがいはないか。 ・句読点や符号の使い方はよいか。 ・主語と述語は合っているか。 ・「です」「ます」と、「だ」「である」が交ざっていないか。	
【新出漢字】 材 ザイ 取材 題材 位 イ 位置 一位 くらい 十の位 害 ガイ 災害 有害 清 セイ 清書 清流 きよい 清い心 例 レイ 例をあげる たとえる 例えば きよまる 水が清まる きよめる体を清める 倉 ソウ 倉庫 くら 米倉 完 カン 完成 完全 置 チ 位置 配置 おく 物を置く	
いろいろな意味をもつ言葉 (伝国②) 反対・同じ・にた意味の言葉	★多義語[たぎご](いろいろな意味をもつ言葉) 【S1/S2】詩「とる」や例題を通して、多義語があることを理解する。 【S3/S4】国語辞典を使って、言葉を探したり、語句を分類したりする。
はっけよい すもうとる こんにちは ぼうしとる てんどんの でまえとる セーターの ごみをとる のらねこの しゃしんとる	
【新出漢字】 賞 ショウ 金賞 入賞 民 ミン 民宿 市民 (たみ) 標 ヒョウ 目標 標本 副 フク 副大臣 卒 ソツ 卒業式 臣 シン 家臣 臣下 ジン 副大臣 漁 ギョ 漁業 漁港 リョウ 漁に出る 梅 バイ 梅園 うめ 梅の実	

ふるやのもり（読①）
昔話の読み聞かせ

◎読み聞かせ 中心人物の気持ちの変化や情景

一つの花（読⑥、書②）
場面の移り変わり

◎場面の移り変わり【うつつりかわり】 登場人物の気持ちの変化、情景
【S1】 教師の範読を聞く。
【S2】 人物の行動や会話に着目し、人物の気持ちの変化を確かめる。
【S3】 それぞれの場面の世の中の様子や出来事を押さえる。
【S4】 「一つだけ」という言葉に着目する。

【語彙・表現】

「一つだけちょうだい。」 まだ戦争のはげしかったころ おやつどころではありません てきの飛行機 ばくだん 町は、次々にやかれて、はいになっていきました。 「一つだけー、一つだけ。」 お母さんの口ぐせ 知らず知らずのうちに 深い、ため息 めちゃくちゃに高い高いする わた入れの防空頭巾 配給のきっぷ 大事なお米で作ったおにぎり おじぎり たえず勇ましい軍歌が聞こえてきました。 プラットホームのはしの方 まるで、戦争になんか行く人ではないかのように。 ぶいといなくなってしまうました。 プラットホームのはしっぽの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていたコスモスの花 一輪のコスモスの花 キャッキャッと足をばたつかせてよろこびました。 一つの花を見つめながらー。 十年の年月がすぎました。 とんとんぶきの小さな家 ミシンの音が、まるで、何かお話をしているかのよう スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって

▼「一つの花」の設定

・登場人物はだれで、どんな人ですか。 ・いつの時代の物語ですか。 ・きせつはいつですか。

・どんな場所がえがかれていますか。

▼戦争中と戦争後の場面をくらべ、「一つだけ」という言葉が出てこないわけを考えてみましょう。

・コスモスの花 ・食べ物 ・登場人物の行動

▼言葉を置きかえると、様子はどのようにちがってきますか。

・ゆみ子は、おなかをすかしていた。 (いつも・たまに・ときどき)

・ゆみ子は、泣きだした。 (とうとう・すぐに・まもなく)

・ミシンの音が、聞こえてきた。 (たえず・しばらく・しばしば)

【新出漢字】

初 ショ 最初 初日 はじめ 初め
はじめて 初めてのこと はつ 初耳 初雪
(うい) (そめる)

戦 セン 戦争 開戦 (いくさ)
たたかう てきと戦う

争 ソウ 戦争 あらそう 先を争う

給 キュウ 配給 給食

包ハウ 包帯 包丁 つつむ 紙に包む
帯 タイ 包帯 地帯 おびる 電気を帯びる
おび 帯を結ぶ

機 泣 別 勇 軍 兵 隊 輪 特
キ (キュウ) ベツ ユウ グン ヘイ タイ リン トク
飛行機 特別 勇気 軍歌 兵隊 兵隊 一輪車輪 特別
機会 なく 区別 勇者 軍隊 出兵 隊列 輪投げ 特色
(はた) 泣き顔 わかれる 友と別れる いさむ 勇ましい
(ヒョウ)

日本語(国語)【小4】7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 7月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21：5 【S2】 13：5 【S3】 6：6 【S4】 2：6	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
夏の風景 (書②) 夏にかかわる語句	● 夏にかかわる語句[ごく] 【S1】 写真や俳句から、夏の風景や様子を表す言葉を考える。
山したたる 山全体が緑におおわれて、生命力があふれている様子。 夏草 夏木立 緑陰 せみしぐれ 万緑の中や吾子の歯生え初むる 中村草田男 海水浴 すいかわり 波打ちぎわ 日光浴 海開き その年の、海水浴場を使い始める日。多くのちいきでは、七月一日とされている。 遠泳や高浪越ゆる一列 水原秋楊子 夏ざしき すだれをつるして、日ざしをさえぎったり、風通しをよくするために、ふすまやしょうじを開け放したりしたざしき。 帆の風をわけてもらふや夏座敷 正岡子規 すだれ ふうりん よしず 打ち水 タすずみ	
自分の考えをつたえるには (書⑦) 段落の役割	◎段落相互の関係 目的や必要に応じた理由や事例 【S1/S2】 話題例「山と海とどちらがいいか。」から、自分の考えを決める。 【S3】 理由を書き出す。 【S4】 「たいせつ」を読み、意見文を書くときの組み立てを学ぶ。
1 話題をたしかめて、自分の考えを決めよう。 〈話題例〉 ・ハイキングに行くなら、春と秋のどちらがいいか。 ・学級全員で遊ぶなら、ドッジボールとかるたのどちらがいいか。 2 自分の考えと理由を書き出そう。 3 自分の考えがはっきりとつたわるように、組み立てを考えよう。 ・「初め・中・終わり」の組み立て 『初め』－自分の考えの中心を書く。 『中』－理由と、それに関係する事例を、内容のまとまりごとに、くわしく書く。 ・一つ目 → 二つ目 → 三つ目 ・なぜかという → もう一つ 『終わり』－自分の考えの中心をはっきりとつたえるため、もう一度書く。 ・このような理由から ・このように	
【新出漢字】 各 カク 各段落 各地 (おのおの)	
漢字の広場② (書②)	◎3年生までに配当されている漢字

練習 波 泳ぐ 暑い 太陽 息つき 夏祭り かき氷 有名人 命中 鉄板 配る 油 炭 平等 注ぐ 全部 味わう 家族
持つ 荷物 出発 速い 旅行 九州 予定 自由研究 豆 調べる 温度 緑色 葉 根

「読むこと」について考えよう
かけ
読みたい本の見つけ方 (読⑤)
読み方の違い(物語と説明文)
引用・要約

◎目的や必要に応じた読み方、引用や要約
物語と説明的な文章での、読み方の違い[ちがい]
【S1/S2】教材文を読んで物語と図鑑を比べる。
【S3】文章の種類によって読み方にどのような違いがあるかを考える。
【S4】「かけ」を読んで、作品の感想を書く。

『物語』 【どんな読み方をしているか】

- 物語の設定 ・いつの話か。(季節・時間など) ・どこの話か。(場所) ・だれが出てくるか。(登場人物)
- どんな出来事(事件)が起こりそうか。

『図鑑』 【どんな読み方をしているか】

- 何について説明している文章か、話題をとらえようとしている。
- 写真や図などと文章を合わせて読んでいる。

【語彙・表現】

森は、休息している 木もれ日はじっとしたまま、動かない。 かすかにゆれている 緑の大きなさかずきのよう 温かい
エクス 頭がくらくらしてくるまで しぐさがなんともきみょう かげがとびはねている 首すじの毛をさか立て、きばまで
むき出した。 後ずさり コケモモのエクスのにおいが、辺りにただよっていた。

読みたい本の見つけ方

☐ ふだんの生活の中でさがす

- ・友達や先生のおすすめの本
- ・教科書でようかいされている本

☐ 読んだ本をもとにさがす

- ・同じ作者が書いた本
- ・同じシリーズの本
- ・同じような話題が書かれた本

☐ 図書館でさがす

- ・本だな(表紙や目次を見る。初めの部分を読む。など)
- ・新しく入った本を集めたコーナー
- ・司書の人の話

☐ 書店でさがす

- ・絵本や児童書を集めたコーナー

【新出漢字】

周 シュウ 周辺 一周 まわり 池の周り
種 シュ 種類 種目 たね 菜種 種まき
季 キ 季節 四季
節 セツ 季節 節分 ふし 節目 竹の節
巢 (ソウ) す クモの巢 巣箱

無 ム 無理 無関係 プ 無事 無札
ない 無い物ねだり
末 マツ 結末 文末 すえ 行く末
然 ゼン 自然 当然 ネン 天然
児 ジ 児童書 育児 (二)

文・文節

日本語(国語)【小4】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 9月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
忘れもの ぼくは川 (読②) 詩の音読	◎話者の気持ち 【S1】 場面の様子や人物の気持ちを想像しながら声に出して読む。 【S2】 自分が気に入った表現を見つける。 【S3】 それぞれの詩の特徴的な表現について発表する。 【S4】 呼びかけ、擬人法など表現の工夫に目を向ける。
忘れもの 高田敏子 入道雲にのって 夏休みはいつってしまった 「サヨナラ」のかわりに 素晴らしい夕立をふりまいて けさ 空はまっさお 木々の葉の一枚一枚が あたらしい光とあいさつをかわしている だがキミ！ 夏休みよ もう一度 もどってこないかな 忘れものをとりにさ 迷子のセミ さびしそうな麦わら帽子 それから ぼくの耳に くっついて離れない波の音	ぼくは川 阪田寛夫 じわじわひろがり 背をのばし 土と砂とをうるおして くねって うねって ほとぼしり とまれと言っても もうとまらない ぼくは川 真っ赤な月にのたうったり 砂漠のなかに渴いたり それでも雲の影うかべ さかなのうろこを光らせて あたらしい日へほとぼしる あたらしい日へほとぼしる
カンジーはかせの漢字しりとり (伝国②)	★ 漢字しりとり 二字熟語
【新出漢字】 候 コウ 気候 天候 (そうろう) 器 キ 器官 楽器 (うつわ) 官 カン 器官 長官 航 コウ 航海 出航 士 シ 力士 脈 ミャク 葉脈 山脈	

英 票 希 望	エイ ヒョウ キ ボウ	英語 投票 一票 希望 希望 一望 (モウ) のぞむ 望みがかなう	径 紀 氏 兆 億	ケイ キ シ チョウ オク	直径 半径 紀行 紀元 氏名 (うじ) 一兆円 億万長者
だれもが関わり合えるように 手と心で読む (話・聞⑮) 要点メモ 発表の仕方			◎必要なことを調べて要点をメモする。 ◎発表の仕方 ◎理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。		
【語彙・表現】 小さな点のうき出たところ 点字 指でさぐって読む文字 急に目を悪くして入院 もう回復は望めない まるで心のふ るさとを失うように 点字をおぼえるようにはたらきかけたのは、母でした。 自分で自由に使える文字をもつ もどかしく感 じられる点字は、たて三点、横二列の六点で一文字 文字のもつ大きなめぐみ 知識や考え、思いをつたえ合うこと 人々の心 を結ぶ便利な道具や方法 人間のちえ 多くの人によるこびをもたらしていく					
点字についてもっと知りたい。 ・点字は、どんな物やどんな所で使われているのか。 ・点字を考案したルイ・ブライユは、どんな人だったのか。 ・世界には、どんな文字があるのか。 ・文字は、どのようにして生まれたのか。					
文字について知りたい。 人やものと関わり合うための工夫には、他にどんなものがあるのか知りたい。 ・目の不自由な人の役に立つ工夫には、どんなものがあるのか。 ・耳の不自由な人は、どんな方法でつたえ合っているのか。 ・より多くの人と関わり合うための便利な道具には、どんな物があるのか。					
料 課 不 械	リョウ カ フ カイ	資料 料理 課題 放課後 不自由 不安 機械	便 利 札	ベン リ サツ	便利 便所 たより 風の便り 便利 利点 お札 表札
			ビン (きく) ふだ	郵便 航空便 名札	
漢字の広場③ (書②)			◎3年生までに配当されている漢字		
落とす 始まり 追う 転がる 急ぐ 進む 暗い 深い 酒 飲む 皿 お礼 幸福 終わり 悪い 海岸 悲しい 助ける 去 る 乗る 向かう 着く 美しい 玉手箱 受け取る 開ける					
「そうだ」の二つの意味					

日本語(国語)【小4】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 10月 ユニット・指導内容・ステップ						
【ユニット モジュール配分比率】		ステップ：現学年	【S1】 42：10	【S2】 25：11	【S3】 12：12	【S4】 3：13
ユニット[観点]・日本語テキスト		指導内容				
ごんぎつね（読①、書③） 場面の移り変わり		◎場面の移り変わり[うつりかわり]、登場人物の性格[せいかく]や気持ちの変化、情景[じょうけい] 【S1】教材文を読む。 【S2/S3/S4】登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。				

【語彙・表現】 小さなおしろ おとの様 ひとりぼっちの小ぎつね しだのいっばいしばった森 いもをほり散らしたり、菜種がらのほし てあるのへ火をつけたり、百姓家のうら手につるしてあるとんからしをむしり取っていったり 空はからっと晴れて もずの声が キンキンひびいていました 小川のつつみ すすきのほ 雨のしずくが光っていました。 三日もの雨 水がどっとまして いました。 川べりのすすきはぎのかぶが、黄色くにゴった水に横だおしになって、もまれています。 川下 ぬかるみ道 そうっと じっと ぼろぼろの黒い着物をまくし上げて 水にひたりながら はりきりというあみをゆすぶって はちま き 大きなほくろみたいにへばり付いていました。 ところどころ、白い物がきらきら光っています。 びく ぶちこみました 土手 川上 ごんは、ひょいと草の中から飛び 出して はりきりあみのかかっている所より下手の川 じれったくなって いちじくの木のかげ お歯黒 かみをすいてい ました。 お宮にのぼりが立つ よそ行きの着物 何かぐずぐずにえていました そうしき 屋根がわらが光っています。 ひがん花が、赤いきれのように 白い着物を着たそうれつの者 白いかみしも 赤いさつまいもみたいな元気のいい顔 今日はなんだかしおれていました。 どこについていて ぴかぴか光るいわし うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをした→次の日→山でくりをどっさり拾って→次の日も、その次の日も→その次の日には、 くりばかりでなく、松たけも→その明るる日も 兵十のほっぺたに、かすりきず ぬすびと 月のいいばん チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。 ポン ポンポンと、木魚の音 お念仏 おきょうを読む声 兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。 神様のしわざ あわ れに思わっしゃって 物置でなわをなっていました。 ぬすみやがったあのごんぎつねめが 火なわじゅう 足音をしのぼせ て ごんを、ドンとうちました。 ごんに目を落としました。 ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。 兵十は、火なわじゅうをばたりと取り落としました。 青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。						
登場人物の行動や気持ちの変化を読もう						
▼「ごん」は、どんなきつねですか。それは、どこから分かりますか。						
▼「1」の場面で「ごん」がしたいはずらによって、その後、「ごん」と「兵十」は、たがいに相手のことをどう思うようになったでし ょうか。場面ごとに「ごん」が「兵十」にしたことをまとめ、そのときの「ごん」の気持ちを読み取りましょう。						
▼「兵十」と「加助」の話を聞いた後もつぐないを続けようとした「ごん」の気持ちを考えましょう。						
▼「6」の場面について、次のことを考えましょう。						
・「ごん」に対する「兵十」の気持ち ・「兵十」に対する「ごん」の気持ち ・「兵十」が気がついたこと						
言葉						

▼「ごんぎつね」の中で、場面の様子がよく分かる、目にうかぶようだと思う表現をノートに書き写しましょう。

・空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。(9ページ8行目)

・人々が通ったあとには、ひがん花がふみ折られていました。(15ページ11行目)

▼「ごんぎつね」には、「思う」と「考える」という、よく似た言葉が出てきます。「ごんぎつね」の中から、この二つの言葉が使われている文を書き出しましょう。そして、どう使い分けられているかを考えましょう。

書いてみよう

▼「6」の場面の後で、「兵十」が「ごん」のことを「加助」に話すとしたら、どんな会話になるでしょうか。二人の会話を想像して書いてみましょう。

【新出漢字】

変 ヘン 変化 変身
かわる うつり変わり かえる 場所を変える
散 サン 散歩 分散 ちる 花が散る
ちらす ほり散らす ちらかす 紙を散らかす
ちらかる 紙が散らかる
続 ゾク 連続 続出
つづく 雨がぶり続く つづける 話を続ける
付 フ 付近 付録
つける わり付け つく へばり付く
松 ショウ 松竹梅 まつ 松たけ 松林

折 セツ 右折 折半 おる ふみ折る
おり 四季折々 おれる えだが折れる
側 ソク 側面 かわ(がわ) かた側 右側
差 サ 大差 交差点 さす 明かりが差す
念 ネン お念仏 記念
連 レン 連続 連休 つらなる 車が連なる
つらねる 名前を連ねる つれる 家残て連れ立つ
固 コ 固定 固有 かためる 雪を固める
かたまる 土が固まる かたい 頭が固い
飯 ハン ご飯 夕飯 めし 昼飯

秋の風景(書②)

秋の風景にかかわる語句

● 秋の風景にかかわる語句【ごく】

【S1/S2/S3/S4】写真や俳句から、秋の風景や様子を表す言葉を考える。

山よそおう

秋になり、葉が赤や黄に色づいて、山全体がはなやかにいろどられている様子。

色づく そまる 紅葉 黄葉 もみじがり

山彦の我れを呼ぶなり夕紅葉 白田亜浪

稲かり

田に実った稲をかり取ること。九月や十月の晴れわたった日に行うことが多い。

豊年 稲穂 落ち穂 新米

はさ はさは、かり取った稲をほすために、木や竹を組んだもの。地方によって、よび方や形がことなる。

稲刈って畦は緑に十文字 高野素十

虫の音

虫の美しい鳴き声のこと。「虫の声」ともいう。日本では、昔から、秋の虫の音を楽しんできた。

虫の声 月よりこぼれ地に満ちぬ 富安風生

虫聞き 虫時雨 馬追虫 松虫 くつわ虫

日本語(国語)【小4】 11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 11月 ユニット・指導内容・ステップ												
【ユニット モジュール配分比率】		ステップ：現学年	【S1】 42：10	【S2】 25：11	【S3】 12：12	【S4】 3：13						
ユニット[観点]・日本語テキスト		指導内容										
慣用句 (伝国②)		★ 慣用句[かんようく]の意味を知る。【S1/S2/S3/S4】										
慣用句												
いくつかの言葉が組み合わさって、新しい意味をもつようになった決まり文句												
体や心に関する言葉や動物や植物に関する言葉をふくむものがたくさんある。												
かたかなで書く言葉が入ったものもある。												
『体や心』 頭をひねる 心がおどる												
『動物』 借りてきたねこ 虫の知らせ												
『植物』 うり二つ 実を結ぶ												
『かたかな』 エンジンがかかる メスを入れる												
【S1】 先生の号令で、教室は□□□□になった。												
【S2】 おじいさんの見事な手品を見て、孫たちは、□□□□な顔になった。												
【S3】 姉さんは、□□□□なせいかくだ。												
【S4】 話の内容が、□□□□に分かる。												
・竹をわったよう□□□□ ・手に取るよう□□□□ ・水を打ったよう□□□□ ・きつねにつままれたよう□□□□												
【例】												
・息を殺す□□□□ ・えりを正す□□□□ ・油を売る□□□□ ・型にはまる□□□□ ・世話を焼く□□□□ ・なみだをのむ□□□□												
【新出漢字】												
借	シャク	借用	借家	かりる	本を借りる	殺	サツ	殺風景	(サイ)	(セツ)	ころす	息を殺す
令	レイ	号令	命令			型	ケイ	原型	典型的	かた	型にはまる	
孫	ソン	子孫	まご	初孫	孫の手	焼	(ショウ)	やく	世話を焼く			
貯	チョ	貯金					やける	日に焼ける				
老	ロウ	老母	老人	おいる	年老いた父 (ふける)							
アップとルーズで伝える (読⑧)		◎段落[だんらく]どうしの関係										
段落どうしの関係		【S1】 教材文を読む。										
		【S2】 段落どうしの関係を考えながら、文章の組み立てについて考える。										
		・接続語に着目する。										
【語彙・表現】												
ハーフタイム 観客席はほぼ満員といっていいでしょう 会場全体が、静かに、こうふんをおさえて、開始を待ち受けている												

ホイッスル 少しうつむいて 広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」 ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」 ユニホームは風をはらみ アップでとると、細かい部分の様子がよく分かります ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かります アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります 受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップでとるかルーズでとるかを決めたり、とったものを選んだりしている

- ・文章全体の問いは、第三段落に書かれています。
- ・第一段落、第二段落は、第三段落とどのような関係があるでしょうか。
- ・第四段落の「しかし」(36ページ7行目)、第五段落の「でも」(37ページ9行目)に着目して、「アップ」と「ルーズ」が、それぞれ伝えられることと伝えられないことをまとめましょう。
- ・「このように」(38ページ1行目)は、前に書いていることをまとめようとするときに使われます。第六段落は、どの段落の内容をまとめているのでしょうか。
- ・第七段落は、それまでの段落とどのような関係でつながっているのでしょうか。

言葉

- ・都道府県の一部で、町村をふくんだところを「郡」といいます。
- ・四つの辺の長さがみな等しく、四つの角がみな直角である四角形を、「正方形」といいます。
- ・「ルーズ」というのは、広いはんいをうつすとり方のことです。
- ・「消費者」とは、品物を買って使う人のことです。
- ・「半径」は、円の中心から円の周りまで引いた直線のことです。

【新出漢字】

伝 デン 伝記 伝説 つたわる 昔話が伝わる
つたえる 思いを伝える つたう 屋根を伝う
観 カン 観客席 観点
満 マン 満員 満足 みちる 月が満ちる
みたす 水を満たす
静 セイ 安静 静止 (ジョウ)
しず 夜の静けさ しずか 静かな会場
しずまる 教室が静まる しずめる 気を静める

試 シ 試合 試食 こころみる 実験を試みる (ためす)
喜 キ 歓喜 よろこぶ 勝利を喜ぶ
以 イ 以外 以上
旗 キ 国旗 校旗 はた 旗をふる
刷 サツ 印刷物 刷新 する 新聞を刷る
郡 グン 郡部
費 ヒ 消費者 費用 (ついやす) (ついえる)

「クラブ活動リーフレット」を作ろう (書⑧)
段落相互の関係

◎写真と文章を組み合わせて、リーフレットを作成する。

【新出漢字】

協 キョウ 協力 協調
好 コウ 友好 好意 このむ 花を好む すく 好き 仲 (チュウ) なか 仲間 仲直り
努 ド 努力 つとめる 学業に努める

形よう詞

日本語(国語)【小4】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単位)

日本語(国語) 小4 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31 : 8 【S2】 19 : 8 【S3】 9 : 9 【S4】 2 : 7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
短歌・俳句に親しもう (二) (伝国①) 短歌や俳句 音読	◎文語調の短歌や俳句[はいく]を音読する。 日本語特有のリズム 【S1】 音読する。 【S2/S3/S4】 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉の調子や響きを楽しむ。
晴れし空揚げばいつも 口笛を吹きたくなりて 吹きてあそびき 石川啄木 金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に 与謝野晶子 ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲 佐佐木信綱 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 正岡子規 桐一葉日当たりながら落ちにけり 高浜虚子 外にも出よ触るるばかりに春の月 中村汀女	
プラタナスの木 (読⑧) 場面の移り変わり	◎登場人物の性格や気持ちの変化、情景 【S1】 教材文を読む。 【S2】 場面の移り変わりや出来事に着目する。 「初め」「中」「終わり」 【S3】 心に最も強く残ったことや感じたことを、一文で書く。 【S4】 季節や風景を生き生きと表す言葉や表現をノートに書き出す。
【語彙・表現】 マーちゃんといつも遊んでいる仲間 せいの高い花島君 ハイソックスが好きなクニスケ ログセが「あらま」のアラマちゃん 川ぞいの公園 古い大きなプラタナス プラタナス公園 リーダーはクニスケ つゆ明け おじいさん 試合が白熱 熱中症 太陽の光が夏に向かってずんずん強くなり 木がさか立ち 木の根がこまってしまう 夏休み 花島君とクニ スケはお母さんのふるさとに帰省 夏休みも半ば 大きな台風が森をおそった 森はおこったようにゆれ、小川は濁流となってあ ばれた しだいにぼんやりとしていく いつしか深いねむりに落ちて 一夜明けると 青く晴れ上がった空の下 太陽の光を 受けてぴかぴかかがやいている 祖父母 ハイソックスをずり落としながら いつものログセ 切りかぶの上 場面のうつり変わりや出来事 ▼「プラタナスの木」は、一行空きで五つの場面に分かれています。言葉や表現に気をつけながら読み、それぞれの場面の様子や出来 事をたしかめましょう。 ▼物語の最初と最後の場面で、変わったことはなんですか。それは、何によって、どのように変わったでしょう。また、変わらないこ とはあったでしょうか。 言葉 季節や風景を生き生きと表す言葉や表現 〈例〉太陽の光が夏に向かってずんずん強くなり、一。	
【新出漢字】 残 ザン 残金 良 リョウ 良好 良心 よい 仲良し のこる 心に残る のこす おかずを残す 省 セイ 帰省 反省 ショウ 省略 (かえりみる)	

囲 イ 周囲 包囲 かこむ 取り囲む かこう さくで囲う 笑 (ショウ) わらう 大声で笑う (えむ) 養 ヨウ 養分 静養 やしなう 家族を養う	はぶく 説明を省く 浴 ヨク 入浴 海水浴 あびる 日を浴びる あびせる 水を浴びせる 芽 ガ 発芽 め 芽生え
漢字の広場④ (書②)	◎3年生までに配当されている漢字
世界地図 神話 童話 図書委員 使う 返す 起立 指名 面積 倍 問題 横 鼻血 歯 感想 昭和 実物 遊び 昔 仕事 体育館 軽い 重い 係 相談 次 校庭 笛 秒	
文と文をつなぐ言葉 (書②伝国②) つなぎ言葉の意味と働き つなぎ言葉の使い方	◎文と文をつなぐ★接続語[せつぞくご]の役割[やくわり] 【S1】 接続語の使い方によって意味が変わる文を読む。 【S2】 つなぎ言葉の働きと使い方を確かめ、役割について整理する。 【S3】 教科書の課題に取り組む。 【S4】 つなぎ言葉を使って、短い文を書く。
(1)雨がふりそうだ。□□□□、かさを持っていく。 (2)雨がふりそうだ。□□□□、かさを持っていない。 つなぎ言葉 前の文と後ろの文のつながり方をはっきりさせる言葉 語と語や、段落と段落をつなぐこともある。 内容と内容のつながり方をはっきりさせるだけでなく、話し手や書き手の気持ちを表すことがある。 ・徒競走のとき、必死で走った。だから、二位だった。 ・徒競走のとき、必死で走った。しかし、二位だった。 ★八時に目がさめた。□□□□、集合時間に間に合った。(だから・しかし) 【だから・それで・そのため】 前の文を理由とする文や、前の文から予想される文が、次に来ることを表す。 【しかし・それでも・でも・けれども】 前の文と反対になるような文や、前の文から予想されない文が、次に来ることを表す。 【また・そして・しかも】 前と後ろの文が、同じようにならんでいることを表す。前の文に、後ろの文を付け加えることを表す。 【それとも・あるいは・または】 前の文と後ろの文をくらべたり、どちらかを選んだりすることを表す。 【つまり・要するに・例えば】 前の文についての説明を表す。 【では・ところで・さて】 話題を変えることを表す。 【新出漢字】 徒 ト 徒競走 徒歩 競 キョウ 徒競走 競争 ケイ 草競馬 (きそう)(せる) 歴 レキ 歴史 歴代 史 シ 歴史 史実 博 ハク 博物館 (バク) 衣 イ 衣料品 衣服 (ころも) 健 ケン 健康 健全 (すこやか) 康 コウ 健康 欠 ケツ 出欠 欠席 かける 月が欠ける かく 決め手を欠く 栄 エイ 栄養 光栄 さかえる 町が栄える (はえ)(はえる) 祝 シュク 祝日 祝福 いわう 卒業を祝う 牧 ボク 牧場 遊牧 (まき) 浅 (セン) あさい きずが浅い 鏡 キョウ 望遠鏡 鏡台 かがみ 手鏡 鏡開き 得 トク 得意 得点 える 協力を得る (うる)	

日本語(国語)【小4】1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 1月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
のはらうた (読②) 野原に集まれ (書⑤) 詩	◎情景[じょうけい]を想像[そうぞう]して読む。 【S1】音読する。 【S2/S3】言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して音読する。 【S4】野原の住人の性格や気持ちを想像して音読する。
しんぴんのあさ かたつむりでんきち まいにち おんなじみただけど まいにち いろんなことがおこる こりやおどろいた おやびっくり へへえなるほどな ふうんそうか まいにち しんぴんのあさがきて ぼくのめ まいにちびっくりめ！ つんつんのばして びっくりめ！ はしる こいぬけんきち まえあしで ちきゅうをつかみ あとあしで ちきゅうをける まえあしで ちきゅうをつかみ あとあしで ちきゅうをける もっともっともっともっ まえあしで ちきゅうをつかみ あとあしで ちきゅうをける いま ぼくは かぜになる	ひかりと やみ ふくろうげんぞう みあげれば よぞらの ほしが まつりのように まぶしい ああ ひかるためには くらやみも ひつようだ はなひらく のばらめぐみ はなびらと はなびらと はなびらの あいだに のはらの わらいごえを すこしずつ すこしずつ すこしずつ ためて ちいさな ばらのつぼみが ほんのりと ほんのりと ほんのりと めをさまし はなひらく
野原に集まれ 野原には、どんな仲間がいるでしょう。思いうかべてみましょう。 ・動物 ・虫 ・植物 ・太陽や星、雲など、空に関係するもの ・池、水たまりなど、地面にあるもの どんな人物かを考えよう。 ・どんなことを思っていますか。 ・何か見えたり聞こえたりしますか。	

冬の風景（書②） 冬の風景にかかわる語句	● 冬の風景にかかわる語句[ごく] 【S1/S2/S3/S4】写真や俳句から冬の風景や様子を表す言葉を考える。
山ねむる 冬の木々が葉を落とし、山が静まり返っている様子。 落ち葉 雪山 枯れ野 冬芽 斧入れて香におどろくや冬木立 与謝蕪村 雪景色 雪がふっていたり、見わたすかぎり一面にふり積もったりした景色のこと。 雪遊び 雪合戦 雪かき 雪下ろし 雪見 靴紐を結ぶ間も来る雪つぶて 中村汀女 冬ごもり 冬の寒い間、人や動植物が活動をひかえて、家や巣、土の中などにこもってしまうこと。 こたつ ストープ 冬眠 冬ごし 腰あげてすぐ又座る冬龍り 高浜虚子	
ウナギのなぞを追って（読⑧） 文章の要約・引用	◎文章を要約したり引用したりして紹介する。 【S1】教材文を読む。 【S2/S3】調査の目的、調査から分かった事実、筆者の考えを区別する。 【S4】写真や図表などを、本文と対応させる。
【語彙・表現】 真南に二千キロメートル、周りに島一つ見えない海の真ん中 あざやかなぐんじょう色の海は、白い船体を青くそめてしまいそう はるか南の海 はるばる日本にやってきました 深いなぞに包まれていた 実に八十年近くの年月がかかった 目の細かい 大きなあみ レプトセファルス ウナギの赤ちゃん どうめいで、やなぎの葉のような形 北赤道海流 木の年輪ににた、 一日に一本ずつふえる輪のできる部分 海底の地形図 大きな三つの海山 南北に連なって こよみと照らし合わせました 新月の日前後 期待とこうふんに包まれました 大きなかんせいがあがりました 三十六年の年月が流れていました 問題 は、これでほぼ明らかになった 言葉 理科の観察・実験や、社会での調査などをまとめるときにも使う表現 ・一はです。 ・一かもしれません。 ・一ようです。 〈例〉地面をさわると、日なたでは温かく、日かけではつめたく感じました。日光が当たったものは、温くなるようです。 【新出漢字】 約 ヤク 要約 節約 産 サン 原産地 出産 うむ たまごを産む うまれる 犬が産まれる （うぶ） 求 キュウ 追求 要求 もとめる 追い求める	底 テイ 海底 底辺 そこ 川底 底力 塩 エン 塩分 食塩 しお 塩をふる 労 ロウ 苦労 労働 察 サツ 観察 考察
漢字の広場⑤（書②）	◎3年生までに配当されている漢字
美化 遊具 寒い 拾う 写真 短い 登る 信号 待つ 道路 洋服 整理 二階 勉強 漢字 お湯 消す 両親 皮 屋根 車庫 柱 身長 お客様 一丁目 手帳 住所	

日本語(国語)【小4】2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 2月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42 : 10 【S2】 25 : 11 【S3】 12 : 12 【S4】 3 : 13	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
聞き取りメモの工夫 (話・聞⑥)	◎話そうとすることの要点メモを書く。 【S1/S2/S3/S4】 大事なことを落とさないように、短い言葉でメモを取る。
メモは、見たことや聞いたこと、考えたことなどをわすれずに覚えておくために取るもの かじょう書き 事がらを、一つ一つ分けて書きならべる書き方。「・」「①②……」などの記号や数字を用いると分かりやすい。 【新出漢字】 覚 カク 感覚 自覚 おぼえる 漢字を覚える 単 タン 簡単 単位 さます 目覚まし時計 さめる 目が覚める	
熟語の意味(伝国②) じゅく語の成り立ち	★ 熟語[じゅくご]の意味 【S1/S2】 熟語の意味を理解し、訓を手がかりにして、熟語の意味を考える。 【S3/S4】 熟語がどのような組み合わせでできているかを調べる。 ・国語辞典や漢字辞典を引き、熟語の意味を調べる。
訓を手がかりにする 二字以上の漢字の組み合わせでできた言葉を、熟語といいます。熟語には、「等分」－「等しく分ける」のように、訓で読むと意味の分かるものがあります。 ・木刀 ・戸外 ・流星 ・竹林 ・多数 ・温水 ・深海 ・伝言 漢字の組み合わせを手がかりにする 熟語には、次のような漢字の組み合わせでできたものがたくさんあります。 (1) にた意味をもつ漢字の組み合わせ ・加入(加わる・入る) ・願望(願う・望む) ・選挙(選ぶ・挙げる) ・救助(救う・助ける) (2) 反対の意味をもつ漢字の組み合わせ ・高低(高い・低い) ・勝敗(勝つ・敗れる) ・売買(売る・買う) ・強弱(強い・弱い) (3) 上の漢字が、下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ ・清流(清い流れ) ・前進(前に進む) ・花束(花の束) ・最多(最も多い) (4) 「一を」「一に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ ・消毒(毒を消す) ・読書(書を読む) ・帰国(国に帰る) ・登山(山に登る) 漢字の組み合わせを手がかりにして、次の熟語の意味を考えましょう。 ・明暗 ・白紙 ・岩石 ・消火 ・着陸 ・軽重 ・取得 ・右折	

【新出漢字】

改	カイ	改良	改札							願	ガン	願望	念願	ねがう	お願いする
		あらためる	行いを改める		あらたまる	年が改まる				低	テイ	高低	最低	ひくい	低い山
挙	キョ	選挙	挙手									ひくめる	声を低める	ひくまる	気温が低まる
		あげる	例を挙げる		あがる	実例が挙がる				束	ソク	約束	結束	たば	花束 束ねる
救	キュウ	救助	救急車		すくう	友達を救う				毒	ドク	消毒			

わたしの研究レポート（書⑤）
報告書・報告文

◎報告書[ほうこくしょ]・報告文[ほうこくぶん]

【S1】教材文を読む。

【S2】報告書を書く手順を学ぶ。

【S3/S4】「ほうこく書の型」を参考に、調べた事柄を整理し、組み立てを考える。

1 調べることを決めよう。

2 本を使って調べよう。

■調べる本をさがすときには

●図書館で本をさがす ・たなを見る。 ・けんさくする。

●本の中をさがす ・目次やさくいんを見る。 ・その他の参考図書を見る。

●司書の先生に相談をする

3 ほうこく書の型をたしかめ、組み立てを考えよう。

題名 問いをそのまま書く。読む人を引き付けるよう、工夫してもよい。

初めに 調べること（問い）、調べることにした理由やきっかけ、調べ方を書く。

分かったこと いくつかある場合や分量が多い場合には、内容ごとに分けて書く。

終わりに 問いに対する答えをまとめて書く。調べる活動を通して考えたことなどを書く。

使った本 筆者名・題名・出版社名・発行された年を書く。

4 調べて分かったことを、ほうこく書に書こう。

ほうこく書を書くときは、調べて分かったことが読む人にはっきり伝わるように書きましょう。また、「—だ」「—である」と「—です」「—ます」が交じらないように書きましょう。

書いたものは読み返して、分かりやすく書けているか、文の終わりの言い方がそろっているかなどをたしかめましょう。

○ 調べたことをほうこくするときに、使ってみたい表現

・—には、—と書かれていた。 ・—によると、—だそうだ。 ・例えば、—。 ・—が当たる。

5 書いたものを読み合おう。

調べたことをほうこくするとき、それがたしかであることをしめすために、本に書かれていることを引用することがあります。

引用するときには、元の言葉や文をそのまま使い、かぎ（「 」）を付けたり二字分下げて書いたりするなどして、他と区別します。

そして、ほうこく書の終わりに、引用元の本の書名や筆者名などを書きます。そうすることで、ほうこく書を読んだ人が、同じ本をさがして読むことができます。

【新出漢字】

働	ドウ	労働	はたらく	会社で働く				貨	カ	硬貨金貨
未	ミ	未来	未知							

日本語(国語)【小4】3月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小4 3月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21：5 【S2】 13：5 【S3】 6：6 【S4】 2：6	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
まちがえやすい漢字 (伝国②) 音読みが同じで意味のちがう漢字 訓読みが同じで意味のちがう漢字	★ 同音異義語[どうおんいぎご]や同訓異字[どうくんいじ]の使い分け ○ 漢字と仮名を用いた表記
平がなで書くと同じになる言葉 1 次の文では、それぞれ、どちらの漢字を使うのが正しいでしょうか。 ・はやくきずが治ってよかった。 ・足がはやくて、追いつけない。 (早く 速く) ・かんしんな行いだ。 ・手芸にかんしんをもつ。 (関心 感心) ・水泳いがいの運動は好きだ。 ・水の量が、いがいに多かった。 (意外 以外) なじみのない読み方 ・米作 (べいさく) ・田園 (でんえん) ・音色 (ねいろ) ・半ば (なかば) 意味と結び付けた読み方 学校では習わない読み方 ・家→うち ・止→やめる 【新出漢字】 治 ジ 政治 チ 自治会 治安 芸 ゲイ 手芸 園芸 おさめる 国を治める おさまる いたみが治まる 量 リョウ 水量 大量 はかる 米を量る なおる きずが治る なおす むし歯を治す	
初雪のふる日 (読⑦) 理由を挙げて書く	◎ 考えや感想の中心を明確[めいかく]にして、理由を挙げながら書く。 ○ 声の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫する。 【S1】 場面の移り変わりに注意しながら読む。 【S2】 女の子の様子や気持ちの変化に着目する。 【S3/S4】 場面や登場人物の様子について感じたことを発表する。
【語彙・表現】 秋の終わりの寒い日 村の一本道に、小さな女の子がしゃがんでいました。 うつむいて地面をながめていました。 それから、首をかしげて、ほうっと大きな息をつく ろうせきでかかれた石けりの輪 どこまでも続いていた どこまでも、どこまでも つぶやきました さげびました 女の子の体は軽くなって、ゴムまりみたいにはずんできた かた足、かた足、両足、かた足一。 橋をわたりました キャベツ畑の細い道 村でたった一けんの、たばこ屋の前を通りました。 あらい息をしながら、得意そうに笑いました。 大きな犬が歯をむき出してほえました。 バスの停留所の辺り ほろほろと雪がふり始めました。 かわいた粉雪 顔を真っ赤にして、あせをびっしょりかいて、とんでゆく 空はどんよりと暗くなり、風も冷たくなりました。 雪は、だんだんはげしくふり始め、女の子の赤いセーターの上に、ほっほっほと、白いもようを付けました。 「かた足、両足、とんとんとん。」 真っ白いうさぎ 女の子はびっくりして、目をぱちぱちさせました。 一どこまでも、どこまでも、世界の果	

てまで。 おばあさん その速いことといったら、もう目が回るくらい うさぎにさらわれてゆくところ 女の子の体は、また、ゴムまりみたいにはずみだし よもぎは、まよけの草
 つむじ風 もみの森をぬけ、 こおった湖をわたり 谷間の村 さざんかのさいた、小さな町 ほほは青ざめ、くちびるはふるえていました。 雪の下にいる、たくさんの草の種の声 あたたかい春の日をいっぱいに浴びて 女の子の足はもうぼうのよう、動きません 日のくれないうちに

言葉や表現に気をつけて読もう

▼場面ごとに、心に残ったところを書き出しましょう。

▼女の子は、どのようにして助かったのでしょうか。歌の言葉に気をつけながら読み取りましょう。

▼女の子の、様子や気持ちの変化を考えましょう。

・おばあさんの話を思い出したとき ・よもぎの葉を見つけたとき ・町の人に取り囲まれたとき

▼次のような、場面の様子を表す言葉に着目して、読み返しましょう。そして、そこから想像できる女の子の気持ちや、気づいたことや感じたことをもとに、音読するときに気をつけることをノートに書きましょう。

・天気などに関係する言葉 ・色や、さわった感じを表す言葉 ・大きさや数などを表す言葉 ・くり返しの表現
 ・くわしくする表現（修飾語）

【新出漢字】

停 テイ 停留所 停車

粉 フン 花粉 粉末 こ 小麦粉 パン粉

こな 粉雪 粉葉

唱 ショウ 合唱 暗唱 となえる 平和を唱える

冷 レイ 冷氣 寒冷 つめたい 風が冷たい

ひえる 体か冷える ひや 冷やあせ

ひやす 頭を冷やす ひやかす 弟を冷やかす

さめる お茶か冷める さます 熱を冷ます

堂 ドウ 食堂 議事堂

漢字の広場⑥（書②）

◎3年生までに配当されている漢字

新学期 進級 始業式 山田君 第五回 代表 作品 毛筆 文集 詩 文章 学級会 決定 反対 意見 打つ 他校生 球 守
 る 投げる 交流 運動会 勝つ 必死 負ける 苦しい

十年後のわたしへ（書②） 文字表記

◎目的に合った内容を考えて、手紙を書く

【S1】生まれてから十年間の出来事を振り返る。

【S2/S3】これからの十年間を想像して、簡単な年表を作る。

【S4】十年後の自分に向けて手紙を書く。

動詞の働き・種類・形の変化

「たいせつ」のまとめ

『話す・聞く』

よりよい話し合いのために →四年上〈司会者〉

- ・参加者から意見が出るよう、工夫する。
- ・意見を整理したり、話題をたしかめたりする。
- ・決まったことをたしかめる。 など

〈参加者〉

- ・話し合いの目的と進め方をたしかめる。
- ・自分の立場を明らかにし、理由とともに話す。
- ・それまでに出的意見との関係を言う。

調べたことを発表する →四年上

- ・記録を活用して内容を整理し、話したいことを明らかにする。
- ・声の大きさや速さ、強弱、間の取り方に気をつけて、大事なことがつたわるように話す。 など

聞きながらメモを取るときは →91ページ

- ・後で見たときに分かるように書く。
- ・短い言葉で書く、記号を使う、かじょう書きにするなど、工夫して、すばやく書く。
- ・聞き取れなかったことなどは、後でしつもんで けるように、印をしたり、書くところを空けておいたりする。
- ・話が終わったら、すぐにメモを読み返し、書き切れなかったことを書いたり、気がついたことを加えたりして、整理する。

『書く』

調べたことを整理して、新聞を作る →四年上

- ・調べる内容に合わせて、取材のしかたを選ぶ。
- ・大事なことを落とさず、正確に取材メモを取る。
- ・写真や図表を組み合わせたり、見出しを工夫したりして、分かりやすい記事を書く。
- ・つたえたいことに合わせて、わりつけを考える。 など

自分の考えがはっきりとつたわるように書く →四年上

- ・初めー自分の考えの中心を書く。
- ・中ー理由とそれに関係する事例を、内容のまとまりごとに、段落を分けて書く。
- ・終わりーもう一度、自分の考えの中心を書く。 など

説明のしかたを工夫して書く →47ページ

- ・内容のまとまりごとに段落を分ける。
- ・内容に合う写真をそえたり、具体例をあげたりすると、読み手に分かりやすい文章になる。

本で調べて、ほうこくする →101ページ

- ・複数の本に当たり、問いの答えになる事がらを集める。

- ・集めたことを整理し、調べて分かったことが読む人にはっきり伝わるように書く。
- ・本から引用するときは、元の言葉や文章をそのまま使い、他とは区別する。
- ・使った本は、ほうこく書の最後に書く。

『読む』

物語・読書

登場人物の人がらをとらえる →四年上

- ・物語を読むときは、会話文や地の文に着目して、登場人物の人がらをとらえながら読む。
- ・登場人物の人がらをとらえ、その人物が物語の中でどのような役わりをしているかを考えると、読みが深まる。

特別な言葉に着目する →四年上

- ・物語の中で、作者が特別な意味をこめている言葉は、例えば、題名に用いられたり、くり返し用いられたり、中心となる人物の会話や重要な場面で用いられたりする。

さまざまな文章を読む →四年上

- ・文章の種類や読む目的に合わせて、どこが大切なところなのかを考えながら読む。 など

感じ方のちがいを知る →28ページ

- ・読んで感じたことや考えたことをつたえ合うと、自分一人では気づかなかったことを教えられ、物語の読みが深まったり広がったりする。 など

自分の体験とくらべて想像する →62ページ

- ・自分の体験とくらべて読むと、場面の様子や登場人物の気持ちが想像しやすい。 など

表現や、場面の位置づけに気をつけて音読する →122ページ

- ・物語を音読するときには、次のことを考える。
- ・場面の様子を聞き手に伝えるためには、どの言葉や文を強調して読めばいいか。
- ・登場人物の様子を表すためには、どの言葉を、どんな調子で読むのがいいか。
- ・場面の位置づけがよく分かるようにするためには、どう変化をつけて読めばいいか。 など

説明している文章

考えをのべた文章では →四年上

- ・自分の考えを強く印象づけるために、その考えを、文章の始まりの部分か終わりの部分のどちらかでのべたり、両方でくり返しのべたりしている。
- ・自分の考えに共感してもらうために、他の段落で、考えのうらづけとなる事からやそう考える理由などをのべている。

段落どうしの関係をとらえる →42ページ

- ・段落と段落は、たがいに関係している。
- ・段落ごとに何が書かれているかをとらえ、それらがどんな関係かを考えると、文章の組み立てが分かりやすくなる。

要約する →86ページ

- ・目的や必要におうじて、話や本、文章の内容を 短くまとめることを、要約という。
- ・要約には、元の文章の構成や表現を生かして短くまとめるものと、自分の言葉に言いかえて短くまとめるものがある。
- ・元の文章のどの部分を取り上げるかは、目的によってちがってくる。

言葉のたから箱

どんな人物かを表す言葉

ゆうかん
熱心
たのもし
のんき
気のいい

あっさり
さっぱり
つんとした
強がり
用心深い

短気
生意気
ずうずうしい
らんぼう
おさない

どんな物や事がらかを表す言葉

くらべものにならない
すばらしい
みりよくがある
言うことなし
二つとない
きょうみ深い
とくしょく

特色のある
身近
たしか
ゆとりのある
ゆたか
力強い
わずか

大げさ
かた苦しい
気味が悪い
あやしい
さすが
一にぴったり
今こも一しそう

気持ちを表す言葉

むちゅう
期待
引きつけられる
心が動く
心温まる
感動
むねがいっぱいになる
うっとり
ぐっとくる
はっとする
心が晴れる
うきうき
好む
気楽

かたの力をぬく
気を引きしめる
関心をもつ
注意
注目
思いこむ
はり切る
苦心
しんぼう
こらえる
なみだが出る
がっかり
こだわる
苦手

なやむ
頭をかかえる
しぶしぶ
いい気がしない
おそれる
ゆだん
あわてる
じれったい
冷やあせをかく
ぎよっとする
ショックを受ける
気が遠くなる
あっけにとられる

学習に用いる言葉

話す・聞く・書く学習で用いる言葉

【議題】話し合いの話題のこと。 →上35ページ

【取材】知りたいことについて、材料を集めること。実際に見る、インタビューをする、アンケート調査をするなどの方法がある。
→上57ページ

【要点】話などの中心となる、大事な事がら。 →上116ページ

【かじょう書き】事がらを、一つ一つ分けて書きならべること →下90ページ

読む学習で用いる言葉

【場面のうつり変わり】時間のじゅんじよなどにしたがって変わっていく場面の様子のこと。 →上68ページ

【段落どうしの関係】段落と段落がどのようにつながっているかということ。 →下34ページ

【要約】目的や必要におうじて、話や本、文章の内容を短くまとめること。 →下76ページ

「言葉」の学習で学んだ言葉

【漢字の組み立て】漢字を組み立てている部分には、「へん」「つくり」「かんむり」「あし」「にょう」「たれ」「かまえ」などがある。
→上26ページ

【慣用句】いくつかの言葉が組み合わさって、新しい意味をもつようになった決まり文句のこと。 →下32ページ

【つなぎ言葉】「だから」「しかし」「また」「つまり」「では」など、文と文、段落と段落、語と語のつながりをはっきりさせる言葉。
→下65ページ

【熟語】二字以上の漢字の組み合わせでできた言葉。 →下92ページ

百人一首に親しもう

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ我が衣手は露にぬれつつ 天智天皇
春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山 持統天皇
あしひきの山鳥の尾の垂り尾の長々し夜を独りかも寝む 柿本人麻呂
田子の浦に打ち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ 山部赤人
奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき 猿丸大夫
鵠の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける 大伴家持
天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも 安倍仲磨
我が庵は都のたつみしかぞ住む世を宇治山と人は言ふなり 喜撰法師
花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに 小野小町
これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関 蝉丸
わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと人には告げよ海人の釣舟 小野 篁
天つ風雲の通ひ路吹き閉ちよをとめの姿しばしとどめむ 僧正遍昭
筑波嶺の峰より落つるみな川の川恋ぞ積もりて淵となりぬる 陽成院
みちのくのしのぶもちずり誰ゆゑに乱れ初めにし我ならなくに 源 融

君がため春の野に出でて若菜摘む我が衣手に雪は降りつつ 光孝天皇
 立ち別れるいなばの山峰に竜さへ夢は通ひ路を過ぐしてよとや 藤原平
 ちはやぶる神代寄る波のふしの間難波なる有明の月を待ち出でつるかな 素性法師
 住の江の岸に葦のふしの間難波なる有明の月を待ち出でつるかな 素性法師
 難波ぬれば今言ひし秋の草木の悲しきねあはれけり我が身一つ 藤原忠平
 佗びぬれば今言ひし秋の草木の悲しきねあはれけり我が身一つ 藤原忠平
 今来むと云ひし秋の草木の悲しきねあはれけり我が身一つ 藤原忠平
 吹くからに千々に幣も逢坂の心あはれけり我が身一つ 藤原忠平
 月見れば千々に幣も逢坂の心あはれけり我が身一つ 藤原忠平
 このたはし負はもみち流るさるる初霜より吉野の流るる花の散らむ 紀友則
 名にし負はもみち流るさるる初霜より吉野の流るる花の散らむ 紀友則
 小倉山の原わき寂しや折らば見えし月と見るが日に静の砂の松の香のいづこに月宿る 文屋朝康
 みかのは冬ぞ寂しや折らば見えし月と見るが日に静の砂の松の香のいづこに月宿る 文屋朝康
 山里は冬ぞ寂しや折らば見えし月と見るが日に静の砂の松の香のいづこに月宿る 文屋朝康
 心当てに折らば見えし月と見るが日に静の砂の松の香のいづこに月宿る 文屋朝康
 有明のつれなく見えし月と見るが日に静の砂の松の香のいづこに月宿る 文屋朝康
 朝ぼらけ有明のつれなく見えし月と見るが日に静の砂の松の香のいづこに月宿る 文屋朝康
 山川に風のどけき春のむ古里は明けぬ貫ひて余りて物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 久方の光のどけき春のむ古里は明けぬ貫ひて余りて物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 誰をか知る人も知らず古里は明けぬ貫ひて余りて物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 人はいさ心も知らず古里は明けぬ貫ひて余りて物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 夏の夜はまだ宵なしく秋の野は誓ひて余りて物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 白露に風の吹きしをば思はず忍れど我が恋は物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 忘らるる身の小野の篠原にけり我が恋は物や思ふと人の問ふ初めしか 清原元輔
 浅茅生れど色に我が名は袖に比ぶれば昔はかなで身方も知らぬ秋は来にけり 惠慶法師
 忍ぶれど色に我が名は袖に比ぶれば昔はかなで身方も知らぬ秋は来にけり 惠慶法師
 恋すてふかたの後の言ふべき人かちの寂しきおのれは燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 契りきなてのたえ言ふべき人かちの寂しきおのれは燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 逢ふ事のとを渡る宿の波の火の夜は燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 逢ふ事のとを渡る宿の波の火の夜は燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 由良の茂れる岩打つ火の夜は燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 八重葎をいたみ岩打つ火の夜は燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 風を垣守衛士の火の夜は燃え昼は消えつつ 惠慶法師
 御垣守衛士の火の夜は燃え昼は消えつつ 惠慶法師